

事業所の概要表

(令和4年8月1日現在)

事業所名	グループホーム 四葉 問屋					
法人名	株式会社 四ツ葉					
所在地	松山市問屋町8番6号					
電話番号	089-922-4165					
FAX番号	089-922-1165					
HPアドレス	http://www.yotsuba4165.com/					
開設年月日	29年 7月 1日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (3) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (介護付有料老人ホーム 四葉 問屋)					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 (男性 3 人 女性 15 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	4 名	要介護2	3 名
	要介護3	1 名	要介護4	9 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	8 人	3~5年未満	6 人
	5~10年未満	4 人	10年以上	1 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 5 人			
	その他 (看護師 2人)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	たんぼぼクリニック・いろはホームケアクリニック・三津整形外科・味酒心療内科・花クリニック・かみおか歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 14 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,000~47,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
食材料費	1日当たり	1,530 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	食事代に含む 円 (夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費	13,260 円
	・ 管理運営費	13,260 円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間			
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 4 回) ※過去1年間			
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	4 回 ※過去1年間 (コロナ減少の為1度開催(R3年12月15日)。再度拡大の為あとは文章で開催)		
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()			

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年10月14日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890101573
事業所名	グループホーム四葉問屋
(ユニット名)	ユニット1
記入者(管理者)	
氏名	宮下由里
自己評価作成日	令和4年 8月 1日

<p>【事業所理念】※事業所記入 健康 すべての人々の健康で豊かな生活文化の向上を目指します。 愛情 すべての人々の心豊かな愛情で、より良いサービスの提供を目指します。 幸福 すべての人々の幸福を思い、常に相手の立場に立った心と行動を目指します。 希望 社会に貢献し、社会の信頼を得て発展する、希望ある企業を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 1.運営推進会議の見直し。→新型コロナによりなかなか施設内での開催ができなかったが、1回だけ、施設ロビーでの開催を行った。今までは少し雰囲気も違い、施設での取り組みなどもお伝えしてきました。 2.地域との接点が少なく、地域と施設との関わり方を考えていく。→地域の集会に参加したい意向はあるが、実際はまだ出来ない。来年度、安城寺に同施設の特養ができるので、その事も踏まえ関わっていきたくと思う。 3.これまでの暮らしや現状把握にもっと努めていく。→入居時にご家族様に記入していただく、用紙を作っている。活用していきたい。 4.新型コロナの事もありますが、この1年半ほど外出が思うように出来ない。→新型コロナの影響もあり、できない時もあるが、入居時に「本人の思い」について話し合っている。他の方も、近くのヤマダ電機などに行ったり、ドライブに出かけることも行ってきた。 5.利用者一人一人について、職員の築きや工夫、アイデアなどを個別に記録していくことが、口頭でのやり取りに比べ、記入漏れがある。→パソコン内に記録は行ってきている。申し送りも、皆に周知していただくようにしている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人全体で「休もつか宣言」「帰ろつか宣言」し、有給休暇の取得を促す。終業15分前から仕事が終われば帰宅できる取り組みを継続している。事業所ではこの一年間は離職者はなかった。新型コロナウイルス感染症に罹患したり、濃厚接触者となった場合、気兼ねなく休暇を取得できるように、系列事業所の職員全員から応援に行けるメンバーを募り、そのメンバーが人員が不足している事業所で勤務できるようにしくみをつけた。 「家に帰りたい。家で過ごしたい」と、本人が希望していることを家族に伝え、家族が本人の親友3人と自宅で会えるようにセッティングしてくれて、職員が送迎等して実現した事例がある。いつも目を閉じている利用者が目を開けて、笑顔になったようだ。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
I.その人らしい暮らしを支える										
(1)ケアマネジメント										
1	思い暮らしの希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。	○	1人1人、本人の様子を聞いたり、伺ったりしながら、希望を知れるよう努めている。ご家族様に向けてのご自宅での状況等詳しく聞くためのアンケート様式も作っているので、試みていく。	◎		○	入居時、本人や家族から聞いた暮らしの希望は、アセスメントシートの「本人希望・要望欄」「家族の希望欄」に記入している。 介護計画見直し時期(3ヶ月ごと)に、職員全員がその利用者についての情報を、ミーティングレジュメの「ケアについて検討すること」欄に記入している。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	普段の様子や表情など関わる中で感じること、職員同士で話し合っており、本人様の気持ちを考えるようにしている。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に対応した職員から情報交換している。電話での状態報告を行う際にも、お話を伺うようにしている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	必要事項の申し送り共有化している。必ず記録には目を通して、確認を行う。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員の思いを押し付けないように、情報交換し声掛けを行っている。訴えの少ない利用者様は特に何かないか?気付けるように留意している。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	1人1人を知る為に、ご家族様に記入していただくアンケートを作っている。ご家族様に聞いたり、本人様から感じ取ったりして、知るように努めている。			○	管理者・計画作成担当者は、入居前に、利用者を訪ねていき、本人だけでなく、家族や利用している介護サービスのケアマネジャー等からも聞き取りを行い、アセスメントシートに、家族構成、仕事歴、性格、趣味、日常生活動作などについてまとめている。 11月からは、家族にシート(馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境についての具体的な項目)記入をお願いすることを予定している。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者一人一人の状態を把握できるように、いろんなお話をしたり、一緒に試してみたり、普段の様子をしっかりと観察しており情報の共有もしている。始めのうちはその把握に努めるのに大変であるが、色々な試みを行い、対応を行っている。					
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	1人1人のペースに合わせた生活リズムを申し送りや状態に変化があれば、すぐに報告するようして把握し情報を共有するようにしている。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人様とのコミュニケーションやスタッフの情報共有を用いて、何が必要であるかを検討している。			○	サービス担当者会議(ミーティング)時は、ミーティングレジュメの「ケアについて検討すること」欄の内容をもとにして話し合っている。	
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	各担当者がモニタリングを毎月行っており、レジュメにはそれぞれスタッフが、気になる点を記入し、ミーティングや日頃のスタッフ同士で話し合い、課題を見つけるようにしている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人や家族様の意向に沿って、計画は立てられて、情報共有しながら、行っているが、必ずしも計画を実行していくことができない事もある。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人やご家族様の意向を聞き、スタッフやナース、担当医など、話し合っており、より良いケアになるように作成している。	○		○	事前に、本人や家族、医療関係者から意向や意見を聞いておき、サービス担当者会議時に、その内容を踏まえて話し合い、計画を作成している。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	1人1人過ごしやすいように人との関わりが出来る様なプランになっている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	運営推進会議で地域の民生委員さんとはお手紙での交流はあるが、他がなかなか交流が出来ていない。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で情報共有を行い、すぐ見れる所に設置している。			○	介護計画書ファイルに介護計画書を綴じて共有している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	毎日の記録は行っている。介護計画に沿ってケアが実践できたか、モニタリングを担当が行い、日々の支援に繋げられるようにミーティングでは話し合いを行っている。			○	タブレット端末の「介護計画欄」に実践した内容を記入している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月ごとに見直しを行っている			◎	計画作成担当者が責任を持って期間を管理しており、3ヶ月ごとに計画を見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月担当職員がモニタリングを行い現状確認を行っている。			◎	毎月、利用者個々の担当職員が「モニタリング総括表」を作成して現状確認している。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身の状態や暮らしの状態など変化がある場合は、ご家族様にも連絡し、担当医ともはなし新たな計画書を作成している			○	状態変化がみられたり、看取り時期に入ったりした利用者には、新たに計画を作成している。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ミーティングを行う為の、レジメを提出してもらい、月1回のミーティングを行っている。緊急な場合は、口頭での説明や緊急ミーティングを行う。			◎	事前に全職員が「ミーティングレジメ(業務についての意見を書くシート)」を記入しておき、それを管理者がまとめ、月1回のミーティング(ユニットごと)時に話し合っている。ミーティング後は、報告書を作成しており、重要な意見や決定事項は赤字で記入している。緊急案件がある場合は、その日の勤務者でミニカンファレンスを行い、決定事項はタブレット端末に記録し共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	レジメの中で率直な意見を述べており、意見交換出来るように他に何かないか?の問いかけも含め、進めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるように開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	なるべく出勤の多い日に行うようにしている。全員のその日の参加は難しいが、その為に、レジメを出してもらっての参加、その後議事録を閲覧してもらい、確認の押印するようにしている。重要な事は、功券での説明や資料を置いての確認を行っている。			○	毎月20日前後で職員が多く出席できる日を選び、ユニットごとにミーティングを行っている。職員は、ミーティングの報告書で内容を確認し、押印するしくみをついている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日々の申し送りや情報伝達は、タブレット使用により出勤時、確認してもらっている。重要な物は、口頭での説明や資料を置いての確認を行っている。	◎	◎	業務やケア、家族とのやり取りなどの申し送り事項は、タブレット端末に記録し共有している。職員が確認してチェックを入れると既読になる。重要事項は、口頭でも申し送っている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	1人1人にその日したいことの確認はまだ出来ていないが、普段の会話から、ニーズの把握に努め、少しでもかなえられるように努めている。				月1回、「選択メニューの日」があり、メインの料理を魚にするか肉にするか選んでもらっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選んでいたけ時は、決定する場を作り、選んでいたけ。入浴前の衣服選び、食事の選び、お散歩に行くか?お風呂は午前午後か?など。			○	毎週月曜日に移動パントリーが来ており、利用者はおやつのパンを選んでいる。迷っているようであれば、職員が「前回食べたのと違うのではありませんか?」等と声をかけて自分で決めやすいようにサポートをしている。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝・食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	1人1人のペースは大事に支援している。起床就寝時間、食事のペース時間、排泄に関しては、1日に20回以上の方もおられるが、その度に支援を行っている。入浴も声掛けを行い、了解いただいている。				10時のお茶の時間には、コーヒー、紅茶、昆布茶(冷、温)を選んでもらっている。
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	明るく声掛けを行い、楽しい雰囲気を作るよう支援している。その時々に応じた言葉かけを行えるよう努力している。			○	誕生日は個々の誕生日当日に行っており、職員がケーキを手づくりしている。皆でハッピーバースデーの歌を歌って拍手をおくり、最後には本人から皆に、お礼のあいさつをしてもうような場面をつくらせている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情や仕草から思いや意向を感じ取り、笑顔であれば、マスクの中でも分かるような表情で笑い返し、怒って手が出る場合は、少し遠目で見守りを行うようにし落ち着いた後、傍でお話をできるようにしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をかけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	丁寧語は引き続き、意識してもらうようミーティングの中で確認を行っている。勉強会や権利擁護での資料をもとに各自確認を行っている。利用者様の今の状態を確認しつつ、困っているなと感じれば、すぐに対応していけるよう配慮している。訴えがない利用者様に関しても目立たず声掛けを行っている。	◎	○	◎	接遇方針の3つの約束「丁寧語を使います。伝わる挨拶をします。清潔感を保ちます。」を、各ユニットに掲示している。3ヶ月に1回、権利擁護について学んでいる。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	オムツやパットの処理など人目に触れないように新聞紙にくるんで処理を行い、入浴介助でも羞恥心の配慮を行いながら支援している。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る際はノックや声かけを行っている。				評価困難
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会資料や研修で勉強し理解に努め、遵守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもありがとう教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯たたみ等手伝ってもらうことも多く、感謝の言葉を伝えている。職員と利用者の中で感謝の言葉を伝え合っている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様達で行ってもらい傍で見守ることもある。貼り絵を2人で共同に行う。など大切さは理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	トラブルを事前に防げるよう観察を行い、関係の把握に努めている。利用者同士の関係の変化によって席替えもしている。			○	利用者同士でトラブルになりそうな時には、職員が間に入り、席を替えたりして対応している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに対して間に入るだけでなく、その後のフォローも行い不安な思いをしないよう努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	出来ている利用者様もいるが、全員は出来ていない。出来ている方は、地域との関係が深く、看取りの段階で今しかないと判断し、ご家族と相談、コロナの中ではあったが、ご自宅にて会って頂いた。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナにより色々制限はあった。コロナでなかなか出られないが、落ちていた時に、小さい時に住んでいたと本人が言われていた場所へ看取りの際にお連れすることができた。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	その日の希望に沿っての支援は難しいが、声掛けを行い、できるだけ施設周りや駐車場に出たお日様を浴びるよう支援している。コロナが落ちてきている時にドライブに行き、笑顔がみられた。	○	△	○	調査訪問日は、車いすの利用者がお気に入りの帽子をかぶり職員と散歩に出かけて行く様子がみられた。敷地内の桜やアジサイが咲くと外に出て観賞している。季節や天候を見ながらひなたぼっこできるような支援をしている。近くのドラッグストアに買い物に出かけた。菊間町のバラ園や道の駅までドライブに出かけることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	x	地域の方やボランティアなどの外出支援には至っていない。				利用者から「自宅のある島を見たい」と希望があり、職員と高浜まで出かけて一緒に島を眺めた。ほかにも、自宅周辺をドライブすることがある。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひととき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会や一人一人の認知症に対してどうしたら落ち着くかを話し合いを行っている。不安な場面では、一緒に歩いたり、お話を聞いたりして支援を行っている。							
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ご自分で出来ることは声掛けしている。体操や口腔体操、ボール投げなど毎日の中でおこなっている。							
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	食事会での調理や洗濯物のたため、月の貼り絵など行っている。できそうな機能訓練も行うようになっている。	○			○	看護職員の意見等を採り入れ「訓練実施表」を作成しており、平行棒を使用した歩行訓練、ゴムバンドやボールを使った機能訓練などを支援している。		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	1人1人の習慣であったり、何を楽しんでいるかを把握しただけで済ませようとしている。カラオケなら声を出してくれる方にマイクを渡して一緒に歌ったり、頭理なら頑張ってくれる方に譲ったりして支援を行っている。							
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	コロナでの制限がある中、楽しみを持っていただきたいと、小規模ながらの夏祭りしたり、季節季節の行事を行っている。一人一人お誕生日にはケーキを焼くようにしている。	○	○	◎	毎月、ユニットごとに室内で行事(ミニ夏祭り、秋祭り、運動会、カラオケ等)を行っている。 月2回の食事会(昼食)時は、利用者も野菜を切ったり、餃子をつくらしたりして、それぞれにできることを職員と一緒にやっている。			
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	どんな髪型が好きなのか、カラーはしたいのか、髪を伸ばすかご家族にお願いでトリートメント購入してもらったり、広告を見てこれが欲しいと言ったので、ご家族に相談し、購入した例もある。							
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	一緒に買い物へ行けないが、本人様が好きなものを購入の際には選んでいる。衣服も本人の好みの衣服を家族様がご持ちしてくれているので、これにしますか?と聞きながら決めている。							
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定できにくい利用者様には、本人の気持ちを汲んでアドバイスしたり、ゆっくり焦らず、待つてみたりして表情をみて伺っていく							
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	今はコロナで外出は控えているが、行事などその時に応じた服装が出来るように支援している。							
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食事後に服の汚れがあれば、声掛けて居室へ誘導、更衣していただく。口腔ケアでも前がびしよびしよになつてしまう方もおられ、声掛けを行い、更衣する。		○	○	○	できる限り介護用エプロンを使用しないことにご協力、膝にタオルを置いて、食べこぼしや口の周囲の汚れは職員がそっと拭くようにしている。		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	施設への訪問カットやカラー染めを行っている。現在は、2か月に1度施行している。							
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。少しでも美味しく食べて頂きたいので、食事会などでは、特に一緒に作ることに関わっていただいたり、見た目も気をつけたりして支援している。							
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事会の時に何が食べたいかをお聞きしたり、調理を手伝っていただいたりしている。				○	建物内厨房からユニットごとに鍋などで料理が届き、職員が配膳している。 朝食と、月2回の食事会(昼食)は、ユニットごとに手づくりしている。利用者の希望を踏まえて献立を立て、巻き寿司、天ぷら、お好み焼きなどを一緒に調理して食べている。		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に買い物は、まだ出来ない、利用者様が包丁を使って切ったさるのには、見守りも少し怖いなど感じることもあるが、終わった後で、ありがたうございますと言うと、いい笑顔される。							
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好きな物嫌いな物は、会話の中で把握している。アレルギーはサバがダメである方がおられるので、把握している。							
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえて、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	食事会の際に旬の食材や昔ながらの味を取り入れている。お祝日にはお見舞いなども提供している。					○	鯖アレルギーのある利用者については、厨房に伝えており、代替えのものを準備してくれている。 秋には、芋炊きや栗ご飯が献立に入っている。 法人厨房の職員のアプローチで、月1回、他県の郷土料理を楽しむ日(昼食)がある。宮城県のおうどん、岡山県のデミカツなどを楽しんだ。	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいそう盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	便秘の方は薬も用いるが、朝食にヨーグルトやバナナの提供も行っている。朝食時の器は安易にプレートを使用せず煮物などは小鉢に入れ盛り付けも気を付けている。							
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家で使っていたものや家族様が持ってきたものを使用されている。テーブルや床に飲み物をこぼされる方のミスロー付きコップを使用させてもらっている。					○	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナ禍の為一緒に食事することはできないが、見守りやサポート等は続けている。						○	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事会などで声掛けしたり、ペットごととビンゴへ連れ出して、雰囲気も味わってもらっている。			◎		○	居間には献立表を掲示しており、献立表を見て食事を楽しんでいる利用者がある。	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分チェック表をつけており、1日の水分量をしっかりと取れるよう気を付けている。水分が難しい方には果物を提供している。							
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が減った時には食事形態の見直しを行い、その都度厨房に提出し変更している。水分が少ない方には好きな飲み物の提供を行っている。									
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	朝食の献立は、職員が立てているが、話し合っていない。昼食の献立は厨房にて希望も聞きながら栄養士が立ててくれている。						○	月1回の厨房ミーティング時には、職員2名が参加して、味付けや献立等の意見を伝え、反映してもらっている。		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板や布巾の消毒を行っている。期限の確認をしながら食材を使用している。									

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	資料などで勉強している。必要性、重要性は理解できている。				口腔ケア時等に異常を発見した場合は、訪問歯科の受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	痛みの訴えや食べ方が違ってきたなど、食事が減ったりしたら、口の中も探ってみる為、歯科医にお願いする。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診に来られた際に、磨き方など、指導受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	昼食後は、声掛け行い、義歯のお手入れを行えるように支援している。中には、嫌がってなかなか外させてもらえない方もいる。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	お昼前には紅茶でのがいを行っている。飲んでいただくこともある。口腔内、不具合がみられれば、担当歯科医に往診をお願いする。			評価困難	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	紙パンツを使用している方は多いが、布パンツの方もおられる。定期的なトイレ誘導を行っている。				見直が必要な場合は、その都度話し合っている。おむつの状態で退院となった利用者について、状態を観察して話し合い、紙パンツ使用に変更し、トイレでの排泄ができるように改善した事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会の資料などで勉強し理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表があり、確認している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	入居の際に紙オムツで対応だった方も紙パンツになっている。その時々状態にあった支援ができるように心がけている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	看護師や職員で話し合いは行っている。毎日、ヨーグルトやバナナを朝食時にお出しするようにしたり、牛乳をお出ししたり、一人一人毎日チェックしながら、下剤の調整もしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	チェック欄があり、早めには声掛け行いが、断られる時もある。逆に介助のいる方で1日に20回以上行く方もおられ、行っても出ないことが多々ある。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族様がおむつをお持ちになられている方もおられます。入居時、紙パンツやパッドについてどうされるかを話し合います。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	1人1人の状態に合わせてパッドを昼夜変えたり日中は布パンツで夜だけ紙パンツなど変えている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	外部評価でヨーグルトやバナナ、はちみつを使用して自然排便の取り組みのお話があったから、当施設でも朝食にバナナやヨーグルトを朝回に取り入れている。牛乳を飲んでいただくこともしている。運動を行ったり、動くことも声掛けしているが、断られる時もある。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	曜日は職員の間でもあるのだが、時間帯は、午後がいいと言われる方もおられ、希望通りに入浴行方。入浴時間も湯船にゆっくと浸かりたい人もおられる。その人によって、支援している。	◎		◎	週2回、午前、午後、夕方の本人が希望する時間帯に入浴を支援している。夕方じゃないと嫌という利用者があるようだ。機械浴、リフト浴を整備しており、重度化しても湯舟で温まれるよう支援している。いろいろな種類の入浴剤を用意している。
		b	一人ひとりが、つろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	個浴ではリフトも導入して跨いで入りにくい人は使用している。湯舟の中でゆっくとつろいでおられる。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自分で出来るところははしていただいている。転倒のないよう見守りは行う。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	お風呂へ行きますよと直接言うとかんよと拒否されるので、ちょっと一緒に行ってくださいとお願いして、脱衣所へ誘導行方。日を変えたり、時間を変えたりしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には必ずバイタル測定行っている。入浴後も水分補給していただきながら、リビングで様子を見ている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	昼夜逆転されている方、トイレ回数が頻回な方、おられるが、その日の状態を見て声掛け行っている。				薬剤内服者については、往診時に医師に相談しながら支援している。日中、体操をしたり散歩をしたりして、活動する時間をつくり、安眠につながるよう取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転していることもあるので、日中、散歩へ3回程でかけたり、レクリエーションしたり生活リズムを整えながら、夜間試してみている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	薬に頼らないように、何とか落ち着いていただきたく、日数をかけて支援をしている。結果、どうしても難しく、医師に相談し服薬がでることある。状態をご家族様に報告し、服薬していただいている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様が希望したり1日の流れて少し臥床した方がいい方は、スタッフが誘導し休んで頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	コロナで会えないご家族様がたくさんおられ、お便りをアメリカまで送ったこともある。本人自らが娘様に電話をする時もある。お互い認知症である、姉妹が電話のやり取りをしている。アメリカからも週に1回程度電話がある。					
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	アメリカへ手紙を送る時も、少しご自分で記入するよう促した。					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	食事時、夜間はなるべくやめていただいているが、その他は、ご自分で携帯を持たれている方も2名ほどおられる。居室でお話できるようにしている。					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	契約時に家族様に渡す形になっている方がほとんどである。はがきなどは、本人様にも確認していただいている。					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	どうしても落ち着かれない時は、家族様に協力の電話依頼を行うこともある。					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	家族様の許可を頂いて紛失しても大丈夫なように少し持っていたいただいている方もおられる。					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	出来ていない。要るものがあれば、職員が代行して購入する。					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	希望があればご家族様と相談して、お財布を持っていただけ、お金を入れていた。					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お財布を持たれている事によって少し落ち着かれるのであれば、ご家族様と相談して持っていたいただいていた。今はおられない。					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	契約の時に家族様と確認をとっている。必要なものがあれば、連絡をし購入するようにしている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	看取りの方で、ご自分が小さい時に居られた場所、北条へ、コロナが少し落ち着いていることもあってかけて、喜ばれた。もう一人は、家に帰りたいと希望していた男性で、今しかないタイミングでご家族と協力してご自宅にて地元の仲良し4人組が来られ、目を開けられ、喜ばれた。	◎	◎	「家に帰りたい。家で過ごしたい」と、本人が希望していることを家族に伝え、家族が本人の親友3人と自宅でお会いできるようにセッティングしてくれて、職員が送迎等で実現した事例がある。いつも目を閉じている利用者が目を開けて、笑顔になったようだ。		
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は夜間以外開けている。玄関前にプランターでお花を作った。駐車場は、どこに留めてもいいように、施設前は全て当施設の駐車場になった。	◎	◎	◎	玄関前が駐車場で、現在、一部に面会室を建設しており、1月から使用可能となる予定である。玄関周りは、掃除がしやすい、季節を楽しむよう花木を植えている。玄関を入ると絵画や季節の花、観葉植物を飾り、事務室の職員が笑顔で対応してくれる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等)	○	季節の飾りをしていたり、利用者様の写真を貼っていたりしている。	◎	◎	◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気は常に行っている。臭いも消臭剤を使用するようにしている。掃除は毎日行い、細かい所は、時間をみてゴミ箱なども洗うようにしている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節のお花(桜、アジサイ、ひまわり、ススキなど)を飾ったり、キッチンがすぐ近くなので、料理の匂いは感じて頂ける。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	席間はなるべく気の合う利用者様同士になるように工夫はしている。一人一人思い思いに、ちょっと横になろうかと居室へ帰られる方もおられる。あまりに臥床が多い方は、声掛けを行いリビングで過ごして欲しい方もおられるが、拒否される方もおられる。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご自分が使っておられたタンスを持ち込まれている方もおられる。テレビを置いている方で、BSがみたいとの希望あり。みれるようにご家族と相談行い、付けたこともある。	◎			新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレにトイレですという紙を見えやすいように貼ったり、お部屋にチームプレートを貼って見せたりしている。もしもお風呂にも手すりがたくさんついており、できる限り自立した生活が送れるようにしている。ハンドレフは誤飲の可能性があるので、分らないように置いておくところもある。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は読まれる方にお渡しし、その後は、テーブルに置いてある。リモコンは、ご自分で独占される方がおられるので、置けなく、預かっている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人もたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけるなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	玄関は夜間は施錠するが、日中は、リビングのドアも玄関も開いた状態で生活している。利用者様はリビングを出て、玄関を出る時もある。万が一の為に、モニターを玄関外にも設置し、日中は、事務所の協力もお願いしている。	◎	○	◎	日中は、玄関、ユニットの扉に鍵はかけていない。事務所のモニター画面に玄関の内外の様子を映してあり、何かあれば確認することができる。3ヶ月毎の権利擁護委員会の折に、鍵をかけることの弊害についても学んでいる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約時にご家族に了解を得ている。どうしても危ない場合は、一時的に玄関のドアの鍵をかけることもある。					
(4)健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時のアセスメントである程度把握している。その時々確認したいことがあれば、ご家族様に電話連絡を行い、確認している。その事を皆に申し送りして知らせている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	いつもと違うとかんじたら、すぐに報告相談を行っている。その状態により往診をお願いするか見守るか判断を行っている。特に看取りの場合は、常に管理者と連絡を行いながら、行っている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば、管理者やナースに連絡し、かかりつけ医にも相談できる関係にある。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	契約時ここで担当医を選んでいただくが、他医療機関に通院する場合は、ご家族、もしくはスタッフで対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	契約時に担当医を紹介し、ほとんどの方が、選ばれる。かかりつけ医と事業所の関係は施設始まってから続いており、信頼関係はできている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診をした結果や報告は、ご家族がいない場合は、必ず行っている。その後、担当医も交えて、話し合いを行うこともある。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設からは生活情報提供書を作ってお渡しするようにしている。入院の際には、管理者が対応することが多い。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ナースや管理者が病院と連絡を取り合い、状態を確認している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職場内のナースがユニット毎にいる為、相談を行えるようになっている。訪問看護を使用する場合は、安信訪問看護に近いこともあり、相談出来るようになっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	担当医にいつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切に行えるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定を行っている。状態の変化によりすぐ報告するようになっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者及使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	薬の目的や副作用は、理解できている職員もいるが、全員ではない。用法や用量については、夜勤、早出、服用の際に確認し状態の経過や変化があれば、看護師、管理者に報告し、医師、家族にもお伝えしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	1人1人の服薬は、ナースが管理し、その日の分は薬BOXがあり、夜勤者がセット行い、早出が確認を行うようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後に変化がないか確認を行い、その状態を記録し申し送りに入れるようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居の際に重度化した場合や終末期のあり方はお話しするが、まだまだお元気がなかなか意向が分からない時もある。担当医と相談しながら、その時々にご家族様と話し合いを持つようにしている。				看取り支援開始時に、家族、医療関係者、職員で話し合い、方針を共有している。 この一年間では、3名の利用者の看取りを支援した。その際には、感染症対策を徹底して、家族が自由に面会ができるよう配慮した。 看取りの途中で、新型コロナウイルスに感染したことが分かった利用者については、ベッドを窓側に移動して家族と窓越しで面会できるようにした。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取り支援の開始には、ご家族様と医療機関と一緒に話し合いを行う。職員には、MTなどを通して、方針を共有するようにしている。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思いや力量は把握している。支援が出来る様、不安な事があれば、いつでも電話対応や内容によっては、来所することもある。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居前に説明し終末期になった時に、理解して頂く為、再度お話しを行い、理解された方の看取りを行っている。				
		e	重度化や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	担当医、訪問看護にて一緒にチームとして、支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様に連絡を行い、状態や様子を報告し家族様のお話を聞いたりして気持ちに寄り添うようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会や研修にて学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	実際に経験した事を元に作成した資料などで勉強している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	インターネットで情報収集したり、社長、事務所より最新情報を教えて頂きながら、随時対応できるようにしている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	マスク、うがい手洗いを徹底し体温測定を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様に助けていただいている事も多く、入居様の様子を報告し一緒に支えていく関係を築いている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 毎月、利用者の担当職員が、日常の様子を知らせする手紙を書き、写真を添えて送付している。年4回発行するユニットごとの便りで暮らしの様子を報告している。 運営推進会議の報告書で行事、設備改修、機器の導入について報告している。年4回発行するユニットごとの便りで職員の自己紹介コーナーを設けている。職員の異動については、家族の面会時などを捉えて伝えている。 電話や面会時に利用者の様子を報告し、意見や要望はないか聞いている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	行いたい気持ちはあるが、コロナの為、出来ていない。以前は花火など家族と一緒にしていた。また出来るようになれば、行っていきたい。	○			
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしが日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お便りや日頃の様子や運営推進会議が書面で開催しており、書面の中で記入していただいていることもある。行事や写真の送付など、暮らしを報告している。本来は、第1保護人様だけに送付となっているが、ご心配して、連絡がある方には、何かか送付させていただいて喜ばれている。	○		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所されてからの様子や認知症の変化など、差し入れやSkypeでお話される際に、状態報告を行っている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	ユニットのお便りや自己紹介欄、運営推進の報告書にて、きちんと報告している。	○		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	一人一人起こりえるリスクは違うが、家族様に説明している。リスクを無くす為の対策を行う時も、家族様に説明し話し合っている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時には最近の様子なども伝えており積極的に声かけを行っている。状態の変化があれば電話での連絡を行い、緊急性があれば来所していただいている。ユニット内には入れる時は、居室にてお茶をお出しすることもしていたが、今は出来ない。以前は、どうしてもご家族の支援が必要な場合に、娘様が一緒に宿泊されたこともある。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に社長もしくは、部長、管理者、保証人様と書類にて確認をしていただき、サインを頂くようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	看取りによる退居はいくつかある。転居は1軒あり、ご家族様からの意向であった。家賃含めた金銭的なことでの転居であり、元気にしてもらって有難うと声をかけていただいた。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	問屋組合には入っている。社長、部長が主に行ってくれている。		◎		自治会に加入している。地域行事などのお知らせはFAXで届くようになっているが、地域行事は中止となり、交流の機会はほぼない。散歩時に挨拶をするくらいのことまっている。さらに、このような時期であっても、地域とのつながりを持つような工夫や取り組みはできないだろうか。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域行事が中止になっており、交流の機会がなかなか持てていない。施設周りを利用者様と散歩する際に、挨拶は必ず行っている。		○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	今は事業所内に入れないので、難しいが、何かあれば手伝うと声掛けてくださる方も増えてきている				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	今はできていない				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りついでなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所の方と職員の出勤、帰る際、利用者様とお散歩時に挨拶は行っている。来ていただくことがまだ出来ない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	日常的な支援や遠出、行事が外から来ていただくことが出来ない。何かいい方法はないか模索している。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店、スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	諸施設とは連携をとっている。コンビニ、理美容、消防など関わりを持っているところもあるので、これからも声掛けしていきたい。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナが落ち着いている時に1回だけ、ロビーを使っての運営推進会議を行った。後は、書面での開催になっているが、毎回、かなりの方からの返信を頂いている。	◎		○	令和3年12月に1Fロビーで会議を行った。そのほかは、書面で会議を行っている。書面会議時は、すべての家族と、民生委員、市の担当者、地域包括支援センターの職員に報告書と返信用の用紙、封筒を同封している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	評価への取り組みなど、紙面に報告している		◎	○	報告書に利用者や事業所の近況報告、活動状況を記している。集まる会議時は、パワーポイントを使って日頃の様子の写真を見てもらった。外部評価実施後は、評価結果や目標達成計画の内容を要約して資料をつくり報告した。
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	書面での開催も少しかえてきたり、ロビーでの運営推進も今までとは違う形で行ってみた。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	入社時理念についての説明は行い、カードをもっている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	運営推進の中でお伝えしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	今は外部研修へなかなか行けないこともあるが、希望があれば、受けられるよう取り組んでいる。				法人全体で「休もっか宣言」「帰ろっか宣言」し、有給休暇の取得を促す、終業15分前から仕事が終われば帰ることができる取り組みを継続している。事業所ではこの一年間は離職者はなかった。新型コロナウイルス感染症に罹患したり、濃厚接触者となったりした場合、気兼ねなく休暇を取得できるように、系列事業所の職員全員から応援に行けるメンバーを募り、そのメンバーが不足している事業所で勤務できるようにしくみをつくった。法人代表者は、週2~3回事業所に訪問しており、職員と話をしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勉強会の資料を月々につけており、全ての職員が目を通し、確認している。気になる部分は、個別に資料を渡して勉強できるようにしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境や条件の整備などは、部長をはじめとして改善に努めてきている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	以前は交流する研修に行っていたが、今はなかなか行けていない。再開できたら、取り組みをしていきたい。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	何かかわったことはないですかと気にかけて下さっており、気になるような状況になれば、部長をはじめ面談を行うようにしている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的などのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	権利擁護委員会で3か月ごとに資料を配り、確認してもらっている。何度も勉強会の資料にて確認を行ってもらっており、対応方法や手順については理解している。			○	3ヶ月毎に行う権利擁護委員会時に学んでいる。不適切なケアを発見した場合、職員は、リーダーに報告し、リーダーから管理者に報告することになっている。内容によって、ミーティングの議題に挙げて話し合ったり、個別に話す時間を持つたりしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その日その日に日々のケアについて振り返ったり話し合っている。気になる時は、個々に呼んで話を行うこともある。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲労がみられる場合は、話を聞き、少し休んでもらう事も声掛けしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	権利擁護委員会の資料にて確認してもらっている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	今は身体拘束の方はいない。ミーティングなどでも話に出し確認おこなっている				
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今は、拘束や施設の要望はない。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	包括の勉強会で学んでいるが、理解しているとは限らない。パンフレットなどは置いていない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	包括支援センターとは何かと連絡とるようにしているが、連携の体勢まではとれていない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し把握できるようにしている。勉強会でも資料を確認してもらい、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会で学習しているが、実践できるように訓練は行っていきたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットや事故報告は検討を行い、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日頃から考えられるリスクや危険は、職員で出し合っている。管理者にも報告あり、検討したことは、取り組むようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情のマニュアルは作っている。苦情が発生した場合は、管理者に相談し迅速に対応を行うようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	管理者に報告があり、部長や社長にもすぐ報告を行うようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	今回、コロナ発生に伴い、ご家族様からのお話があり、こちらの意向もお伝えし前向きな話し合いを行った。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者が意見を伝えようとしたときは、職員も対応している。以前事務所にあったが、入れにくいかもしれないと、Skypeの行えるスペースにボックスを置いている。しかし入っている事はない。	◎		◎	利用者には、日々の中で聞いている。家族には、面会や電話連絡の際に聞いている。また、運営推進会議の書面会議の折は、家族全員に報告書を送付し、運営についての意見や要望等を書く用紙と返信用封筒を同封している。 職員全員、ミーティングレジュメの様式に意見や提案等を書くしきみをつけており、意見等はミーティングの議題にして話し合っている。管理者は、気になる職員がいれば、声をかけて話を聞くようにしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	入居後はなかなかできていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場には足を運んでこられている。何かありませんかと常に声掛け行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は、気になる職員がいれば、声をかけて話を聞くようにしている。一緒に現場で仕事をやっているの、意見や様子についても把握できるようにしている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の前に自己評価を行ったり、賞与の前に自己評価を行っている。				外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果や目標達成計画の内容を要約して資料をつくり報告している。モニターをしてもそのような取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画は立てており、取り組んでいる。日が経つと、薄れることもあるので、常に配信して取り組みたい。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果は運営推進で報告しているが、モニターを行うなどの取り組みはまだできていない。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	できている事も多々あるが、地域との関わり方は、まだ出ていない。取り組んでいきたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	それぞれの災害マニュアルは作っている。				避難訓練は、建物内の有料老人ホームと合同で年2回実施しており、12月の避難訓練は、消防職員立ち合いのもと行った。地域との合同の訓練や話し合う機会は持っていない。家族、地域アンケート結果を参考に、協力・支援体制の取り組みを工夫してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	夜間設定の避難訓練は、行った。いつもと違い、急に職員氏名され、火災で行ったが、まだ出来ていないことが多かった。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常食に点検などは、定期的に行われている				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年に2回、2、3階の有料老人ホームとの合同避難訓練は、行っている。	△	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域のネットワーク作りにはまだ参加できていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けての情報発信がまだできていない				特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	地域の方から相談があれば支援するようになっているが、取り組んではいない。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	新型コロナのこともあり、解放できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	フィリピンからの研修生が2名来られている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	まだ行っていない。			×	